

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「鍛える」「見守る」「高める」をキーワードに、「知・徳・体」のバランスのとれた人物、将来において社会で自立できる人物、社会に貢献できる人物を育成するというコンセプトのもと、次の4点を本校のめざす学校像とする。

1 すべての生徒の学力を3年間でよりいっそう向上させ、進路希望を実現する学校

2 生徒一人ひとりが充実した学校生活を送り、「行ってよかった」と思える学校

3 保護者・地域等と連携し、共に生徒の主体的成長を積極的にサポートする学校

4 学校教育目標の達成に向け、教職員が協働して日々の教育活動に組織的に取り組む学校

※「鍛える」：生徒の学力、体力、精神力を鍛える。「見守る」：生徒の自主的、自発的な活動を見守る。「高める」：感性、人間性、社会性、人権感覚、国際感覚を高める。

2 中期的目標

- 1 学力・進路保障**— 生徒の探究心・向上心を育て、学力の向上と進路目標の実現を図る。
- (1) 3年間の計画的な取組みを通して、学力向上・進路目標の実現を図る。
- ア GIGA スクール構想により整備された無線 LAN (Wi-Fi) のアクセスポイントの活用と共同学習等 1 人 1 台端末の効果的な使用方法の研究に努め、ICT を積極的に活用した授業改善をさらに進める。それにより、「視覚的效果」を生かし、また「板書時間の削減」による「机間巡視及び個別指導の増加」、「対話的授業」に取り組むことで授業の効率化を図り、生徒の思考力、判断力、表現力をいっそう伸長させる。
- イ Advance 講座・Basic 講座や講演会等の進路関連行事の充実を図り、生徒に明確な進路目標を立てさせ、その実現に向けて取り組ませる。
- ウ 生徒の国際理解を深めるため、国際交流の取組みを進める。
- ※学校教育自己診断（生徒）において、「ホームルームや授業などで将来の進路や生き方について考える機会がある。」肯定的回答率を 90%以上維持。
(R3：90%、R4：92%、R5：91%)
- ※学校教育自己診断（教員）において、「ICT を活用した授業を実施し、思考力、判断力、表現力の向上につなげている。」を 90%以上とする。
(R3：85%、R4：81%、R5：86%)
- ※大学進学において、関関同立の合格総数 120 人以上を維持、国公立大学の合格総数を 10 人以上にする。
(R3：110 人 2 人、R4：119 人 5 人、R5：100 人 5 人)
- (2) 教志コースを充実、発展させる。
- ア 1 年生を対象にしたコースのガイダンスの充実を図り、生徒一人ひとりが将来の進路を見据えてコースを選択できるよう、きめ細かい指導を継続する。
- イ 2 年生の「教志入門」の内容をいっそう充実させるとともに、効果的な運営を継続する。
- ウ 受講した講義記録と報告、実地実習の記録と報告、レポート課題等の作成や教志実践を主体的・積極的、また協働的に行うことにより、進路実現への意欲や情報活用能力・プレゼンテーション能力を向上させる。
- エ 3 年生の「授業研究」のよりいっそうの充実を図る。
- ※進路実現の一環として、大阪教育大学・育成プログラム「教師にまっすぐ」受講及び「作文コンクール」応募を推進する。
- 2 学校生活**— 生徒の主体性、規範意識を向上させ、安全・安心で充実した学校生活を送ることができるようよりいっそうの環境改善を進める。
- (1) 学校行事の取組みや部活動において、生徒の主体性を涵養する。
- (2) 生徒の規範意識の向上を図る。：自転車運転のマナー、学校生活におけるマナー（遅刻、服装、頭髮、装飾品等）
- (3) 「総合的な探究の時間」や LHR を中心に、計画的な人権学習の機会を設け、生徒の人権意識のいっそうの向上を図るとともに、安全・安心で充実した学校生活を推進する。
- ：他者を尊重する心の育成、差別やいじめを起こさせない環境作り、性教育、薬物乱用防止教育、防災教育等の実施、あいさつ運動の実施、ネットリテラシーの習得、高いレベルでの文武両道（学習活動と学校行事・部活動等）の推進、環境（学習・生活）整備
- ※学校教育自己診断（生徒）において、「学校に行くのが楽しい」の肯定的回答を 90%以上とする。
(R3：87%、R4：87%、R5：89%)
- 3 学校運営**— 地域の教育資源を最大限に生かしながら、機動力のある学校運営を行う。教員が健康で意欲的に働ける、同僚性に富んだ職場環境を整える。
- (1) ICT の積極的活用により、校務運営のいっそうの効率化を図る。
- (2) 教科を超えた、教員相互の授業見学の促進や、地元の小中学校等の授業見学等の機会を設け、教員の授業力の向上を図り、相互に高め合う職場環境づくりに努める。また、初任者及び経験年数の少ない教員等への研修を充実させる。
- (3) 校内における職員研修等、あらゆる機会を活用し、教職員の人権意識や規範意識の向上に努める。
- (4) 業務見直し、効率化をさらに進め、教職員の働き方改革をいっそう進める。
- (5) 地域連携の取組み（地域行事・八中校区地域教育協議会への参画、北高アカデメイアの実施等）の定着・推進を通して、地域からの信頼をよりいっそう高める。
- ※北高アカデメイアの参加者満足度について、引き続き 95%以上を維持する。
(R3：コロナ禍により未実施、R4：97%、R5：97%)
- 4 広報**— 効果的な情報発信に努め、保護者・地域から信頼される、開かれた学校づくりを推進する。
- (1) 効果的な広報活動の実施—学校説明会・学校ホームページ・メールマガジン・部活動等、生徒会活動等のブログ、校長通信、バナー広告掲載等を通して、本校の取組み及び連携機関の周知を図る。
- スクールミッション、スクールポリシー、アドミッションポリシーの周知を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年 12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学力・進路保障】 ・「1人1台端末を効果的に活用している」の肯定的回答率は82%→91%と上昇している。また、「学校の授業は充実しており、満足できる」（今年度新規項目）についても肯定的回答率は92%であり、ICT機器を活用	【第1回 令和6年7月12日（金）実施】 ・教員の「働き方改革」、特に部活動指導について、取組みの推進が必要である。 ・小学校、中学校、高等学校が隣接する立地を生かして、「あいさつ運動」等の取組みに見られるような、良い連携がなされている。今後も地域行事への参加も含め、さらに地域

府立高槻北高等学校

した授業が定着し、生徒たちが意欲的に授業に取り組んでいることがわかる。しかしながら、授業以外での学習時間については、昨年度より短くなり、また定期考査に向けて取り組み始める時期も昨年度よりやや遅くなっている。進路実現に向けて、さらなる授業の充実とともに、家庭等での学習習慣を定着させる取組みが必要であると考ええる。 【学校生活】 ・「学校へ行くのが楽しい」「学校行事に主体的に取り組んだ」「部活動に主体的に取り組んだ」「積極的に挨拶をしている」の項目での肯定的回答率はそれぞれ 89%→91%、93%→96%、76%→95%、84%→92%と上昇しており、生徒たちが落ち着いて、しかも主体的に学校生活を送ることができていると考えられる。 ・自転車の運転マナーに対する意識は 98%と高水準であるが、近隣や学校からやや離れた場所でのマナーについて外部から注意を受けることもあるため、交通安全の指導を継続していくことが必要である。 【学校運営】 ・「教職員で日常的に話し合っている」「取組みの点検・評価を行い、次年度の計画に生かしている」「授業改善の認識」の項目での肯定的回答率はそれぞれ 70%→80%、81%→83%、63%→68%といずれも上昇しており、多忙で時間的な余裕があまりない中でも、教職員が協働の意識を持って業務に取り組んでいると考えられる。 ・「働き方改革の推進」については、肯定的回答率は 51%→42%と低下しており、学校内の取組みとしては会議の削減や行事の内容の見直し等、さまざまに進めてはいるものの、教職員の実感が伴うまでには、さらなる改革が必要であると考えられる。	連携を進めることが大切である。 【第2回 令和6年11月29日（金）実施】 ・SNSを利用しての広報活動等、効果的な広報活動を推進していくことが大切である。 ・登下校時の自転車マナーは向上していると感じるが、今後ヘルメットの着用指導等も考えていく必要がある。 【第3回 令和7年1月30日（木）実施】 ・「学校教育自己診断」によると生徒の授業以外での学習時間が減っているが、現在では、生徒たちは、さまざまなアイテムを活用して学習していることも考えられるため、効率的に学習しているとも言えるのではないかな。 ・働き方改革について、クラス担任の業務のうち、生徒指導については、教員と生徒との信頼関係で成り立っている事象もあるので難しいところではあるが、スクールカウンセラー等、個別対応できる人員を増やすよう、制度面での整備を申し入れる必要があるのではないかな。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 学力・進路保障	(1) 生徒の学力向上・進路目標の実現 ア 生徒の学力の向上	(1) ア 1人1台端末の効果的活用を進め、ICTを活用した授業の充実を図り、思考力、判断力、表現力のさらなる向上につなげる。	(1) ア 学校教育自己診断（生徒）において、1人1台端末の効果的活用：80%以上を維持[82%] ICT機器の活用：95%以上維持[98%] 授業アンケート質問 89の肯定的回答率:85%以上を維持[88%]	(1) ア 1人1台端末の効果的活用：91%（◎） ICT機器の活用：98%（○） 授業アンケートの質問 89の肯定的回答率:87%（○）
	イ 進路関連行事の充実・進路目標の実現	イ 進路関連行事を充実させることにより、生徒が明確な進路目標を立て、目標の実現に向けて努力する姿勢を涵養する。 ・Advance 講座・Basic 講座の充実 ・丁寧な科目・コース選択説明会の実施 ・進路分野別説明会・進路説明会の実施	イ 大学入学共通テスト出願者：140人以上を維持[158人]	イ 大学入学共通テスト出願者：143人（○）
	ウ 国際交流の取組み	ウ 教育旅行等で来日した中・高生等と交流の機会を設け、生徒の国際理解を深める。	ウ 国際交流の実施：1回以上[新規]	ウ 国際交流の実施：1回（○）
	(2) 教志コースの充実・発展 ア「教志入門」のさらなる充実	(2) ア 2年生設置科目「教志入門」のさらなる充実を図る。 ・生徒が教育課題等についての理解を深められるよう、招聘する講師との入念な事前打ち合わせを行う。 ・実地実習の事前及び事後指導の充実 ・国際交流や学校説明会等における、コース生の活動を促進する。	(2) ア 教志コース2年生アンケートの取組み満足度：95%以上を維持[100%]	(2) ア 取組み満足度：100%（○）
	イ 大学との連携	イ 大学のキャンパス訪問や大学が主催する講座やコンクールへの応募を促進する。	イ 大阪教育大学主催の「教師にまっすぐ」受講者：3人以上[7名] 「作文コンクール」応募者：3人以上[4名]	イ 「教師にまっすぐ」受講者：2人（○） 今年度、教志コース選択者が減少したことを考慮すると、やむを得ない人数であり、また2人とも意欲を持って取り組み、修了できた。 「作文コンクール」応募者：3人（○）

府立高槻北高等学校

2 学校生活	(1) 生徒の主体性の涵養	(1) 生徒会執行部の活動を支援し、生徒が部活動や学校行事に主体的に取り組めるよう工夫する。	(1) 学校教育自己診断（生徒）において、部活動に主体的に取り組んだ：80%以上 [76%] 学校行事に主体的に取り組んだ：90%以上を維持 [93%]	(1) 部活動に主体的に取り組んだ：95%（◎） 学校行事に主体的に取り組んだ：96%（○）
	(2) 生徒の規範意識の向上	(2) 登下校時の交通安全指導の継続、生徒の身だしなみマナー向上週間（各月数日実施）を実施し、生徒の規範意識の向上を図る。	(2) 学校教育自己診断（生徒）において、自転車運転のマナー意識の向上：95%以上を維持 [97%]	(2) 自転車運転のマナー意識の向上：98%（○）
	(3) 人権学習の実施、安全・安心で充実した学校生活の実現	(3) ア 計画的な人権学習を実施し、生徒の人権意識を向上させる。 イ 生徒会執行部、教志コース生、生活委員（生徒）等が中心となって実施するあいさつ運動を支援する。 ウ 外部講師を招聘し、新入生にネットリテラシーの講習会を実施する。 エ 献血の意義の認識・理解を深めるため、北高祭（文化祭）時にビデオ上映等を実施する。 オ 生徒が企画・運営する新入生歓迎会が充実したものとなるよう支援し、部活動の加入率及び満足度を向上させる。 カ 清掃活動を徹底させ、安全点検を定期的を実施し、施設・設備の改善を図ることで、学習環境を整える。	(3) 学校教育自己診断（生徒）において、 ア 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある：90%以上を維持 [92%] イ 積極的に挨拶をしている生徒：85%以上[84%] ウ ネットリテラシーを守っている：95%以上を維持 [97%] エ 献血の意義の認識：85%以上を維持 [88%] オ 部活動加入率及び加入者満足度：80%以上、80%以上 [78%、74%] カ 清掃活動や環境整備への取組み：85%以上を維持 [85%] 施設・設備の改善認識：80%以上を維持 [80%] 学習環境の満足度：85%以上を維持 [87%]	(3) ア 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある：95%（○） イ 積極的に挨拶をしている生徒：92%（◎） ウ ネットリテラシーを守っている：98%（○） エ 献血の意義を認識：91%（○） オ 部活動加入率：80%（○） 加入者満足度：87%（◎） カ 清掃活動や環境整備への取組み：89%（○） 施設・設備の改善認識：84%（○） 学習環境の満足度：91%（○）

府立高槻北高等学校

3 学校運営	(1) ICT 活用による校務の効率化	(1) ICT 機器を活用して、授業内容の効率化及びデータの共有化、その他の校務運営の効率化を推進する。	(1) 学校教育自己診断（教員）において、ICT 機器の活用による授業内容の効率化、データの共有化：それぞれ85%、75%以上を維持 [86%、75%]	(1) ICT 機器の活用による授業内容の効率化：90% (○) データの共有化：77% (○)
	(2) 教師力の向上	(2) ア 授業の相互見学制度を推進し、教科の枠を超えて相互に授業を見学することで、指導方法等を共有・研究し、教員の授業力の向上を図る。 イ 初任者及び経験年数の少ない教員の校内研修を充実させる。	(2) ア 授業の相互見学実施：1人2回以上 [2.5回] 学校教育自己診断（教員）において、校内研修・相互授業見学などによる授業改善の必要性理解：昨年度以上 [63%] イ 学校教育自己診断（教員）において、経験年数の少ない教員（10 年めまで）の満足度：昨年度以上 [72%]	(2) ア 授業の相互見学実施：3.5 回 (○) 授業改善の必要性理解：68% (◎) イ 経験年数の少ない教員の満足度：50% (△) 次年度以降、効果的な研修を企画していく。
	(3) 教職員の人権意識・規範意識の向上	(3) 職員人権研修、救急講習会(教職員対象)の参加をはじめ、あらゆる機会を活用し、教職員の人権意識や規範意識の向上に努める。	(3) 職員人権研修参加率：90%以上を維持 [91%] 救急講習会参加率：90%以上 [80%]	(3) 職員人権研修参加率：91% (○) 救急講習会参加率：95% (◎)
	(4) 働き方改革の推進	(4) 教職員の働き方改革に係る各種取組みを推進するとともに、業務の効率化及び見直しをさらに進めることで、健康で意欲的に働ける同僚性に富んだ職場環境を整える。 ・定時退庁日の確実な実施 ・欠席等連絡及び確認の効率化 ・朝の職員連絡会の効率化 ・保護者宛て文書のペーパーレス化 ・「部活動に係る活動方針」の遵守	(4) 学校教育自己診断（教員）において、学校は働き方改革を推進している：昨年度以上 [51%] 教員一人当たりの月平均時間外在校等時間：昨年度以下 [43 時間 9 分] ストレスチェックにおいて、高ストレス者率：昨年度以下 [17.7%]	(4) 学校は働き方改革を推進している：42% (△) 会議の削減や行事日程・内容の見直し等に取り組んできたが、教職員の実感を伴うものとはなっていないのが現状である。次年度以降、さらに働き方改革を推進していく。 教員一人当たりの月平均時間外在校等時間：40 時間 40 分 (○) 高ストレス者率：13.8% (◎) *近年の高ストレス者率の推移 (R2:18.6%、R3:14%、R4:受験率が特段に低く比較不可、R5:17.7%) を考慮し、自己評価を◎と判断する。
	(5) 地域連携の推進	(5) 地域行事への参画、北高アカデメイアの実施等を通して、地域からの信頼をいっそう向上させる。	(5) 北高アカデメイア参加者満足度：95%以上を維持 [97%]	(5) 参加者満足度：100% (○)
4 広報	(1) 効果的な情報発信	(1) 本校の教育内容及び連携機関の周知を図る。 ・学校紹介パンフレットの刷新 ・学校説明会の充実（生徒が参加、活躍する。） ・ホームページの更新、内容の充実 ・メールマガジンの配信 ・校長通信の発信 ・バナー広告の契約数維持 ・地域中学校、教育産業の訪問等、広報を強化し、スクールミッション・スクールポリシー・アドミッションポリシーの周知に努める。	(1) 学校説明会 参加者満足度：95%以上を維持 [100%] ホームページアクセス数：6 万回以上 [69122 回] 校長通信の発信：80 回以上を維持 [89 回] バナー広告契約数：5 件維持 [5 件]	(1) 参加者満足度：100% (○) ホームページアクセス数：63589 回 (○) 校長通信の発信：81 回 (○) バナー広告契約数：5 件 (○)